

『偶然の出会いでとあるバンドを好きになる！それが心の支えになった』 O.Tさん



所属先が変わる度、ホッとしたりムツとした幼少期

保育園では絵本を読んだり、パズルしたり、だるくて行きたくないと思うこともあった。行くのがめんどくさい。周りとは仲よくできなくてみんなが嫌だった。

小学校は最初の1か月だけ通常級、馴染めなくてその後遠い学校（支援級）に移った。最初の学校ではつなげてきたりいやがらせする子もいて、開放された気分だった。

家の近くの小学校に支援級が設置されたので、小学校3年生でまた転校した。学校自体は楽しくなかった。級友の中には非常識な子もいて、それも含めて嫌だった。下級生がいうことを聞かなかつたとかそんな理由で喧嘩も多かったし、6年生になるころには腐っていた。前の小学校は転校しても遊びに行ったりできたけど、新しい学校では先生も信用していなかった。

🎷 人生を変える出会い 🎮

小学校2年生の時に標識の本で見つけたマークがかっこよすぎて、ある野球チームを応援し始めた。CSで試合を見たりしながら徐々に野球のルールを知った。3年生の時にはプロ野球そのものにはまった。自分が野球をすることも考えたけど、上手くやれるか心配だった。恐らくやるのとみるのは違う。自分は見る派がいいなと思った。はじめて推しの球場に行ったのも小学校3年生。いろんな球場に観戦しに行っていた。今でも継続してそのチームを応援しているし、将来そのチームの地元に住んでみたいという野望がある。

小学校6年の時、たまたま見た朝の番組で、ある伝説のバンドの特集をしていた。番組にはそのバンドのリーダーが出演していて、バンドとしての紆余曲折の歩みを話していた。そのストーリーがかっこよく、自分はすっかり魅了されてしまった。動画サイトで調べて曲を聞くと、音も、ボーカルの裏声も全てよかった。音楽番組でそのバンドの出番が来るまで、夜遅くまで粘ったこともあった。

好きなことがあったことで、学校は面白くなかったけど充実していたと思う。

記憶から抹消したい地獄期でも、推しの存在で生活が潤う

情緒の支援級がなかったなので、中学は通常級に行くことにした。ただ、運動会の練習で失敗したことを責められたり、入ってすぐにいじめや嫌がらせがはじまった。話したくないほどつらかった。学校には行くのをやめた。卒業アルバムや卒業証書もすべて捨てて、この時期のことは記憶から抹消している。

お小遣いで好きなバンドのCDを買って聞いたり、TVにも出てたのでそれをチェックしたりした。心の支え。

バンドや野球チームはやっぱり生活に潤いを与える存在。特に推しのバンドの曲を聞いているときが楽しかった。実際に握手会に行つてメンバーと握手もした。推し活は楽しかったし、自分にとっては神様のような存在だった。

